

## 平成19年度熊本県堆肥共励会耕畜連携推進協議会長賞受賞者概要

団体名	鯨生産組合	代表者名	岩本末政
-----	-------	------	------

取り組み事例  
 <背景及び活動内容>  
 嘉島町鯨地区では、水稻・大豆のブロックローテーションと麦の栽培が盛んに行われています。しかしながら近年、地力低下による収量の低下が懸念されていました。そこで、平成17年度、水田への堆肥施用の説明会、現地検討会を開催し、JA菊池と堆肥散布作業を含む稲わらとの等価交換の実証展示（堆肥散布量2トン/10a、面積5ha）を実施した。  
 堆肥投入の効果が、見られたため、生産部会を中心に堆肥投入について積極的に取り組んでいる。

<活動の結果及び成果>

- 堆肥散布前と散布後の土壌分析を行い、検討会を実施した。その結果、特に土壌の物理性の改善に効果が高かった。
- また、麦の生育調査（展示圃）では、収量が対照区に比べ約2割程度多く、農家の理解と協力が得られ、面積が急速に拡大した。
- 堆肥散布面積の推移（単位：ha）

	H17年度	H18年度	H19年度
堆肥散布面積	5	10	30

<今後の目指す方向と課題>

- 堆肥投入による米・麦・大豆の品質向上と安定生産。
- 今以上に作業の効率化、面積拡大を図るため隣接地域との連携強化を含め、ブロックローテーション等による土地の集積を検討し、計画的な散布を実施する。
- 現在、圃場で焼却している麦稈について、畜産農家の敷料として利用する予定である。



現地での打合せ状況



堆肥散布状況



耕畜連携及び麦栽培講習会の状況



菊池での研修会の状況